

【教育委員会】 教育行政方針

2 学校教育の充実（１）学力向上・健全育成の推進について

○宗形委員長 7 番、宗形一輝でございます。2 ページの学校教育の充実、学力向上、健全育成の推進について質問させていただきます。僕が学生だった頃から、小学生中学生と中標津町において、この地区っていうか根室管内ですね。北海道でも学力が低い地域だっているふうにずっと話は伺ってきました。それでちょっとそこで調べたんです。北海道教育委員会の学力の全国学力学習状況調査北海道版結果報告書っていうのがネットに出ておりまして、その中で根室管内見ますと、やっぱり北海道でも下から2 番目っていう地域に大体位置しているかなというふうに思われます。その中で中標津町っていうところを見ますと、中標津町はそんなに悪くはないんですけども、でも全国平均、北海道平均からもやっぱり少し下あたりに位置しているかなというふうに思うんですけども、まず教育長、やっぱり平均値にいくのも大事なんですけれども子供たちの将来を考えますと、やっぱりしっかり勉強させるのが学生の本分だとは思いますが、これを今年も予算として予算説明資料では201 番にあたりますけれども、212 万ほどつけていらっしゃるんですけども、昨年とそう変わらない金額なんです。そこで、やはりこの状況を脱していくためには少しずつ目標を立てて結果を出して、結果というのは子供たちの学力を上げていく必要があると思うんですけども、その方向性、近い将来ではなく将来的にもっと長いスパンを見て、この地域の学力を上げていく必要があるかなというふうに思うんですけども、教育長どのようにお考えでしょうか？

○教育長 はい。ただいまの宗形委員長の質問にお答えいたします。学力はいろいろな施策を実施することにより向上するものです。関係する主要な施策としては189 番、教育指導強化事業、198 番、外国語教育推進事業、201 番、教育力向上推進事業、204 番、G I G A スクール構想推進事業などが挙げられます。具体的な内容としては、189 番については、学校現場に精通した指導主幹、指導室長の配置を行っています。また、教員の指導力強化のため各学校では教員の校内研修、校外研修を実施しております。さらには授業改善のため根室教育局や教育委員会指導室による学校訪問を行い常に進捗状況を確認しております。198 番については、英語指導助手を2 名体制にして外国語科の充実を図っています。201 番については、標準学力検査を活用し教員の指導力や子供の学習状況を分析することで、経年変化、学年の成果、課題が見えてくることから中標津町学校改善支援プランを作成し、それを基に年度の事業改善に生かしております。204 番については、個別最適な学習としてA I ドリルの導入による学習定着を目指しています。このA I ドリルというのは、各自に与えられた端末の中で学習できるような形を取ることになっております。ただし、これらのことを行っただけからといって直ちに学力が向上するものではありません。学力向上には落ちついた学校生活や規則正しい家庭生活が送られていることは大前提となります。これら2 点実現のため、子供たちに生活指導を行い保護者の皆様に啓蒙をしながら、教育の主要施策も進めて計画実践評価改善、いわゆるP D C A サイクルのもと教育活動のさらなる充実を図りたいというふうに考えております。以上でございます。

○宗形委員長 7 番、宗形一輝でございます。タブレットとか使って勉強している。あと保護者の啓蒙活動もしているということなんですけれども、実際僕も全く勉強しろ勉強しろ言われて、僕全く勉強しなくて赤点取っていたんです。今まで勉強しないでここまで生きてきてしまっているというふうに、やっぱり学生の頃ちゃんと勉強しておけば良かったなっていうような人間の1 人ではあるんですけども、そこまでいかなくても、やっぱり学生はしっか

り勉強中心にすべきだっていうふうには結果として同じ質問なんですけれども、なると思うんです。今の制度として僕たちが学生だった頃と違って 40 人とか教室に入れられたのではなく、35 人学級とかこれから 25 人学級になっていくとかっていう話も聞こえてくるんですけども、やっぱり人数を減らすことによって学生というか、そういう勉強する子供たちがちゃんと先生の目の行き届くように勉強していくっていう方針にいつているはずにも関わらず、この道の教育委員会の方針によると、そんなに上がっていないようなふうに感じるんです。結果としてですね。なっているんです。これを道平均超えて、全国平均超えていくような地域環境作りをしていかないと、やっぱり僕もこうやっていろいろ資格持って仕事をさせてもらっていますけれども、やっぱりその後は勉強苦しみますけど、勉強したらただけそういう人たちのつながりができるわけであって、そういう人たちに恵まれればいいですけども、恵まれなかった場合、将来として普通のサラリーマンとして終わってしまうっていう家庭になってしまいますんで、やっぱり平均して勉強できる環境がないと難しいと思います。そこで教育長として、いろんな研究とかいろんなところに会議に参加されていると思うんですけども、何かそういう有効な学習方針だったり、そういうのは研究、見てきているのかなというふうに思うんですけど、そういった中でいい効果案とかあれば教えていただければと思います。

○教育長 はい。ただいまの宗形委員長の御質問にお答えいたします。実は中標津町の学力については各学校間でかなりの差があります。計根別学園については全国平均を上回るようないい結果を残しています。学校名は控えさせていただきますが、それに比べて低い学校もあるというのが現実です。ではなぜ計根別学園の学力が突出して高いかというところと小中一貫 9 年制。いわゆる 6 年生と中学 1 年生の壁をなくして、子供たちが中 1 ギャップを味わわないで済むような教育活動を展開していること。これが 1 番の理由だと思います。加えて教科担任制を行って中学校の先生が小学校行ったり、時と場合に応じて小学校の先生が中学校の先生を務めたりと、臨機応変な有機的な教育活動を展開していく。これが大きな要因となっていると思います。かと言って市街地の大規模校でそれをそのままできませんので、小中一貫校制度にして小中の連携を深め、さらには今後さらに小から中、中から小という乗り入れを行っていくことで少しずつ少しずつ学力は改善していくのではないかとというふうに思っています。ちなみに全道平均自体も少しずつ上がっているのが現状です。しかし、中標津町の学力もちょっとずつちよつとちよつと上がっているというのも現状です。また、体力運動能力も地道な努力で上がっているというのが現状ですので、今の状況が続けて、少しずつ少しずつ焦らずに子供たちが将来、実社会で生き生きと活動できるような教育行政を展開してまいりたいというふうに思っておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

【教育委員会】一般会計予算歳出

スポーツ大会等開催助成事業・スポーツ活動健康増進推進事業

○松村委員 主要施策の 224 番。スポーツ活動健康増進推進事業なのか、223 番のスポーツ大会等開催助成事業なのか。開陽台マラソンについての記述が摘要欄にありません。これについて厚生常任委員会でもお聞きしましたが、その時の回答をもう 1 回お聞かせいただきたいのです。

○社会教育課長 社会教育課長の七條でございます。ただいまの松村委員の御質問にお答えさ

せていただきます。なかしべつ開陽台 330 マラソンにつきましては、令和 4 年度第 14 回大会も中止となりまして、令和 2 年度から 3 年連続で中止となっております。令和 5 年度第 15 回大会以降の開催に向けまして、実行委員会より近年大きな課題となっております運営体制、財源の確保、住民の理解、この 3 点につきまして主催者でございます町と教育委員会、また一般財団法人中標津町文化スポーツ財団による三者間で検討するように求めがございまして、これまでの協議検討を行ってきたところでございます。この結果としましては、開催を求める声も多数聞こえてきたところでございますけれども、1 番にはやはり安全に大会を運営するために必要な運営スタッフの確保が困難であるという現実や、大会開催にかかります経費の確保も難しいということなど、これまでと同規模の大会開催につきましては困難であるという見解にいたりまして、先月、2 月の中旬に開催されました実行委員会にもお諮りしまして、この大会の終了につきましての承認を得たところでございます。これまで結論が出ていなかったことからですね、開催の有無についての御報告ができなかったところでございます。現在、事務局の主体でございます文化スポーツ振興財団におきまして、この大会終了のお知らせにつきましての準備を進めておりまして、今週中には財団のホームページ上で周知を図る予定でございます。また、教育委員会発行のらいふまっぷの誌面上でも、後ほどお知らせをする予定でございます。一方でこの運営体制だとか大会規模、参加者の安全確保と健康増進を重視しました新たなランニングの機会作りに向けまして、持続可能な内容による見直しを進めるよう、財団さんとも検討を行っておりまして、現在、後継事業についての計画を練っているところでございます。内容が決まりましたら御案内することとしておりますので御理解願いたいと思います。以上でございます。

○松村委員 18 番、松村です。ただいまの御答弁、開陽台マラソンを今年もやらないということについて、予算を作る段階の 12 月ぐらいに、これについては教育委員会レベルから総務部にお話があったと思います。この件についてはいかがですか？実際にやらないんだというお話をその段階で聞いていますか？

○総務部長 ただいまの松村委員の御質問にお答えいたします。330 マラソンの主催者は先ほど教育委員会から御答弁申し上げましたとおり、中標津町と中標津町教育委員会、また一般財団法人文化スポーツ振興財団でございますので、新年度のあり方につきましては、教育委員会サイドからも相談があつて、最終的には町長と理事者とも協議をした結果、実施を見送るという判断ございましたので、予算の協議の段階におきましては、その後継事業にいかん支援するかというような内容の協議をしたという経過でございます。

○松村委員 18 番、松村でございます。開陽台マラソン開催された時には、我々にもスタート時に現場に集まって拍手をすることを求められていました。動員されていたんですよ。我々はもちろんスポーツの振興ということもありますけれども、地域振興として交流人口の増大のために、実際に参加者名簿を見れば、東京はもちろん九州からも飛行機を乗り継いで中標津に来られた方もいらっしゃいました。スタート会場でさまざまな中標津の特産品の販売から、そういうのを丸ごと応援するために、私たちはあそこに行って拍手をしていたと思います。T シャツもあった。開陽台マラソンの T シャツもありました。昨日日曜日、琵琶湖マラソンとか日本全国でたくさんのマラソンが行われていますけれども継続は力なのです。開陽台マラソンという名前を、330 のこの名前を取ってしまつて何をやろうとするのか。もちろんスポーツとしての、だから去年までコロナが蔓延している中で、町民だけを対象とした純粋にスポーツだけの小さな大会が開けないものだろうか。そういう考え方に私も同意します。しかし、コロナが終わって、今交流人口を最大限回復しようとする時に、今までの伝統を継承して、今後も開陽台マラソンを続けていくべきではないでしょうか？できない理由の中に、

安全に運営するためのスタッフが確保できないとあります。今般、私は最初の頃、この開陽台マラソンを始めた方に、その理由をどうしてこうなっちゃったんだろうねとお聞きしましたが、それでも事務局の機能強化が必要です。それは単にスポーツの大会を運営するだけではない、交流人口を増大するための視点をしっかり持った事務局機能を強化して、その中でこの330 開陽台マラソンを今後も継承していくためにどうしたらいいか、そのことに知恵を出す事務局が必要です。時間がありさえすればボランティアは集まります。頭を下げて頼めば高校生だって手伝ってくれるかもしれない。諸々の方法が時間的に余裕があるにも関わらず、予算措置を諦めて、できないという理由をこのように開陳して諦めてしまうには余りにももったいない事業だと思いませんか？330 開陽台マラソンの名称を継承して、次年度以降、改めて事務局機能を強化して、これに臨むことを切に希望するものです。教育長でも町長でも、答弁よろしく願いいたします。

○町長 松村委員の御質問に答弁申し上げます。330 マラソン、非常にネーミングも含めましてですね、参加者も多くて随分いろんな方が参加いただき、本当に遠くは九州あたりから来てくれた方もいらっしゃるという、確かに感謝申し上げる次第でございます。でも、段々やっぱスタッフが不足してくるというのもございますし、当然スタッフの安全性の問題、それからもちろん走る方々の安全性の確保というのは非常に重要な部分でございます。なかなか人が集まりにくくなっているという、スタッフがですね、集まりにくくなっているというのが現状でございます。ただし、交流人口の増加等に関しましてはマラソンだけではなくて、いろんなふうに私からも声をかけて、人口減少の中でいろんなインフラ整備したものが過大になっていってしまう、それをどうふうに補うのかっていうのは、これはもう交流人口、いかに今来てくれる方々を増やすかということにかかっているというのは、これは間違いないと思います。マラソンは確かに非常にもったいない感じもするわけでありまして、やはり1つのものにこだわらずにですね、幅広くいろんなものに対して目を向けてですね、交流人口の増加に関しては増やしていきたいというふうには思うところであります。長く続いた事業をやめるという話もですね、これは過去からいろいろあるわけでありまして、自分達のできる範囲でですね、さらにパワーアップしたものを作っていこうというふうには、ぜひつながるようにですね、努力したいと思っておりますので御理解願いたいと思っております。以上です。

○松村委員 町長の御答弁をお聞きしました。基本的にはこのような決定をするときに、事前に私たちにも、この予算委員会のこの席でない予算について、それについて議論するのはとてもむずかしいです。それ以前にこの事業、こうこうこういう理由でどうしてもできないんだけっていうのを早めに教えていただきたいと思います。今後もあることです。よろしく願いいたします。

○教育長 はい。ただいまの松村委員の御提言というか御質問にお答えいたします。確かに配慮が足りなく、今後の展望がきちんと議員の皆様には伝わっていなかったことは反省すべき点であります。松村委員おっしゃったように交流人口の増加、それから町民みんなが参加できるような事業を新たに構築していけるよう、今後も努力を重ねてまいりますので、御理解をよろしく願いいたします。

○江口委員 8番、江口智子でございます。同じく今の松村委員の質問に関連してですが、2日ほど前にお会いした宿泊業、それから印刷業を営まれている方たちも、マラソンが中止になったということを知らず、今年はあると思っていただけたけれどもということで非常に落胆されておりました。特に宿泊業の方に関しては、週末の土日が埋まるということは非常に大きな収入に結びついていくので期待していたんだけどなというふうな声も聞こえております。そういった意味では、先ほど松村委員からも330とか開陽台という町の代名詞を冠

するイベントでありますので、例えばコースの見直しを図って、今の周回しているコースで、委員会でお聞きしたときは4、500名程度ボランティアが必要だということでしたが、同じコースの例えば往復にすればスタッフが大幅削減できるのではないかと、あと置戸町では、カレーマラソンでしたか？ちょっと本来のマラソンとは違うんですけども、さまざまなイベントをやっておりますので、後継のイベントについても日をあけることなく研究をしていただきたいというふうに思うんですが、この後継のイベントに関してどのようなスケジュールで考えていこうというふうに、今お考えになっているかお聞きします。

○**社会教育課長** はい。社会教育課長の七條でございます。ただいまの江口委員の御質問にお答えさせていただきます。先ほど私の御答弁申し上げましたとおりですね、後継事業につきましては、今、一般財団法人中標津町文化スポーツ財団さんの方で計画を練っている最中でございます。開催日程等も含めまして、まだ計画段階中でございます。その中で、先ほど申しましたとおりですね、330規模の運営については非常に困難であるという結論に至ったところでもございまして、やはり身の丈に合った開催方法というものを模索しております。先ほどご提案いただいたコース取りの件もそうですけれども、なるべく人員をかけずに安全安心に開催できるということを目指しておりますので、御理解願いたいと思います。以上でございます。

○**宗形委員長** 同じく関連で質問させていただきます。前回僕も330開陽台マラソンについて一般質問させていただきました。そのときについては前向きに検討していくということで、お話しいただいたんですけども、今年は中止ということでお話しいただいております。1つ目なんですけども、中止ということは来年度はやらない、今代替の話ししていたのでやらない方向でということだったんですけども、隣の別海町では42.195キロのパイロットマラソンについて教育委員会が事務局でやっているとお聞きしましたけども、それでも中標津町はできないということではないでしょうか？

○**社会教育課長** はい。社会教育課長七條でございます。ただいまの宗形委員長の御質問にお答えをさせていただきます。隣の別海町さんで開催されているということでございますけども、中標津町におきましては先ほど言いました実行委員会の方で検討させていただいて、大会の方を運営させていただいております。その中でも御説明させていただきまして、やはり市街地を走るとなると枝線枝線に1人ずつ監視員を置かなきゃならないだとか、どうしてもスタッフがかさんでしまうということで、安全安心に開催ができないというところでもございまして、なるべくですね、そういうことを排除していこうと考えたんですけども、物理的にどうしても難しいという結論に至ったことから、実行委員会の中でも合意をいただきまして承認をいただいたという経過でございますので、御理解いただきたいと思います。以上です。

以下は質疑なし

- ・一般会計予算歳出以外からの質問